

令和 8 年度第 2 回芽室町総合計画審議会(専門部会) 議事録

令和 8 年 5 月 25 日 (月) 18:30~20:30

役場 2 階 会議室 7、8

出席委員 (8 名)

嶋野部会長、阿部委員、江口委員、佐藤委員、高橋委員、中村委員、平岡委員、丸委員

欠席委員 (2 名)

平谷副部会長、宿谷委員

開会

議事

公立芽室病院の総合的な医療体制の維持・発展

事務局より説明。

委員

「多職種連携 情報共有システム」やオンライン診療などの医療 DX を活用とあるが、これを追いかける成果指標の検討はなかったのか？

芽室病院

成果指標にするのは現状難しい為、従来と同じにして分かりやすくしている。

委員

指標を作る難しさを教えてほしい。

芽室病院

情報共有システムで言えば、芽室病院だけでなく、介護や医療を必要とする人が全員該当する為、病院単独で数字にするのは難しい。

委員

経営上の問題が出てくる中で、成果指標で外来と病床稼働率は大事だけど、わかりやすいように経常収支を目標にするのはどうか？

芽室病院

収支を意識するのは大切であるため、黒字や数字を指標にするのはありだと思う。

委員

必ず収益を出して欲しいという意味ではないので、1 意見としての提案である。

経過を示しやすくするのはありだと思う。

委員

老朽化の計画について現在どこまで進んでいるのか？

芽室病院

施設は平成元年から３年かけ全面改築したが、既に３０年経過している。

病院は３９年から５０年が耐用年数と言われており、まだその年数に到達していないが、更新や改修について考えていかなければならない。

一度、計画を立てたことがあるが、改修・長寿命化は３０億かかる試算となり、その規模感になるのであれば、病院としては立て替えたい。

その段階では建て替えの費用は算出していなかった為、算出の必要がある。

また、試算３０億のなかに、建て替え中に運営する仮設の病棟が費用に入っていない。

建て替えの費用と仮設病棟の費用を算出し、最終的な方向性を検討したい。

委員

耐震化はされているか？

芽室病院

されている。

委員

「地域連携機能の充実」について、町内の診療所や近隣市町村の医療機関と連携していくと捉えているが、芽室病院に必要とされている医療と連携機関で行う医療の役割の違いを教えてほしい。

芽室病院

町内はかかりつけ医として活用している人が多く、芽室病院は入院が必要な患者の対応。町内で対応できない高度医療は連携機関に繋いでいく。

また、介護施設と連携したりして、これからも町民に還元していきたい。

委員

今は医療のレベル感の話だが、心臓や皮膚といったジャンルごとの縦の住み分けはあるのか？

芽室病院

専門的な治療は帯広等に行かなければならないが、非常勤の心臓の先生もいたり、なるべく自院で完結できることを目指しているが、高度医療はなるべく早く連携機関に繋げるようにしている。

委員

緊急や高度なものは帯広で、芽室で完結できるものは頑張って完結して、芽室で完結できない部分は外部と連携の認識で良いか？

芽室病院

良い。また、救急で24時間体制をとっていて、救急隊の判断で直接帯広への場合もある。そういった住み分けはできていると考えている。

救急隊と症例の共有は毎週行っていて、判断が正しかったか協議している。

委員

病院の満足度調査の結果をここに反映させたらどうか？

芽室病院

毎年やっているものを参考にしているが、調査を行う時期によって数字がかなり変動するので記載はしなかった。難しい部分ではあるが、検討したい。

委員

拠点としての芽室病院とすると、外来等だけでなく訪問医療としての芽室病院の存在感が伝わる指標があればいいと思う（意見）

芽室病院

訪問診療、訪問看護の人数は、亡くなる方もいるから増えるのは難しい。満足度調査等はあるが、その部分の現状値がない為、難しいところがあるが検討してみたい。

教育委員会に交代

学校教育の充実

事務局より説明。

委員

主軸が「主体的・対話的で深い学び」になったと捉えているが、成果指標はこれでもいいのか？

全国国力学習調査の中で、わからないところや詳しく知りたいところがあった時、学び方や考えを工夫するという項目があった。

そのような主体的な学びを追える指標があればいいと感じた。

教育委員会

それらも含めて、単に授業が分かるではなく全体的にとらえて今回の指標を採用している。

委員

その意図は理解した。

しかし、記載指標を3つ選ぶ中で、3の朝食を食べているかどうかの項目が選ばれて、先ほどのものを反映する指標がなぜ選ばれなかったのかと感じた。

指標で載せる以上、食べている割合が増える施策を町でしていると捉えた時に、意図が読み取れなかった。3の項目の重要性を知りたい。

教育委員会

これまでにこの項目があったが、朝食を食べている生徒と食べていない生徒で明らかに学力の差があると分析が出ている。

その部分も学力に繋がるという捉えで項目を指標に入れている。

委員

町の施策の反映ではなく、学力が上がっている指標としてみればいいのか？

教育委員会

全国学力状況調査の点数で比較して直で紐づいていないため必ず一致しているとは言えないが、朝食を食べている子が増えていけば、相対的に成績が全体的に上がっていくと捉えた時のものである。

委員

- ① 教員住宅の整備・改修とあるが、借り上げは行わない？
- ② 生成 AI について、スマートフォンの使い過ぎでいじめ等の悪影響があると思うが、それについての認識は？
- ③ 4月から自転車の規制が厳しくなったが、教育現場では何かするのか？

教育委員会

- ① 町で建てたものを管理し、は民間で建てたものを借り上げる想定は現在ない。
- ② 文部科学省が作っている生成 AI や SNS のガイドラインで一律に禁止するものではないと言っているが、リスクについては教育現場で指導したうえで正しく活用していくとなっているので、計画に記載した。
- ③ 自転車については、ルールとは別だが町の校長会で登下校時のヘルメット着用を義務化。昨年、着用により事故を防げた経緯もあった。
4月からのルールについては、学校にルールの周知を教育委員会から行った。細かいルールについては交通安全教室で伝えている。

委員

スマホを遅くまで使うことで弊害が出るのでは。いじめとしてのツールに使われるのでは。また、学力の低下はスマホの使い過ぎ等を現状の課題に入れてほしい（意見）

教育委員会

学校教育において、家庭での使用にどこまで踏み込めるかという課題はある。ただ、活用の仕方によって懸念があることは意見のとおりである為、本書への記載については検討したい。

委員

生成 AI について、学校で子どもたちに何を教えているのか、PTA や学校だよりなどで保護者にも見えるようにしてほしい。

保護者も一緒に悩みながら使っていく環境があるとよいと思う。(意見)

教育委員会

生成 AI は、今後使わざるを得ない社会になっていくと思うが、情報リテラシーやマナーが重要。北海道のガイドラインは出ているが、町で見定める必要がある。

教育研究所を通し、現場の先生方にどういったら効果的か、子供たちを守れるかを今年 1 年かけて試験し、来年度以降おろしていきたい。その際は保護者の同意書も考えている。PTA におろすことも含め考えている。

委員

学校教育の施策が多岐にわたっているのに、成果指標が学力に寄っているように感じる。コミュニティスクールで子供達の成果発表会等の活動があるのに、学力だけで評価されるのはもったいない。地域の大人や教師がどう感じているか、何か新しい聴き方があれば、進んでいることが伝わるのでは(意見)

教育委員会

策定タイミングの関係で提案内容から変えなければならないものが既に生じている。

「授業が分かる」という指標は、子どもたちが主観的に授業内容を理解しているかを見るうえで大切であり、外すことは考えていません。2 つ目も同様。

指標の数に制限がある中で、ご意見いただいた 3 つ目の項目に変わる、結果を推察できるような指標があるか課で検討したい。

委員

① 中学校のかばんの重さについて、現状でも重い。

鞆の重さはタブレット化で軽くなると思っていたが、タブレットに加え教科書、ノート、問題集を持ち運んでいる。カラー化でインクの重さも増え、ICT 化のなかでカバンを軽くするための取組を考えてほしい。

② 学校に馴染めず「ゆうゆう」に行った時にあまり人がいなかった。

これからも馴染めない子が増えていく可能性があると思う。現状の不登校の人数と「ゆうゆう」に行っている子の数を考えると、家にいる割合が高いと思うので、学校以外にも安心できる場所があるという橋渡しをもっとしてもらいたい。

教育委員会

① 学校では、教科書を置いて帰ることは認めているが、家庭で勉強する為に持ち帰らなければならない。ロッカーを活用し、必要な物のみを持ち帰るようにしていますが、実態として重さ問題は解消されてない。

紙とタブレットを選べるようになる予定だが、いつからかは未定。

② 昨年度の不登校 49 名。「ゆうゆう」登録は 25 名。1 週間で 5～10 名ぐらい。

子どもの学びを止めないことを基本とし、リモートが可能な生徒はリモートで対応。北海道のメタバース事業に参加していて、昨年は 2 名が参加している。

「ゆうゆう」もメタバースも登校扱いになるので勧めていきたい。

メタバース等を刺激とし、家から 1 歩出ることを目標及びきっかけにして次の活動や社会的なつながりにしていきたい。

また、不登校になる前からスクールライフアドバイザー等と連携していきたい。

委員

カバンが重い問題に対し、タブレットを持ち帰らなければダメなのか。

他町村でできると噂を聞いたのだが、自宅のタブレットや PC を使用するの難しいのか。使用できるような方向で進めていただければ。

教育委員会

芽室町のタブレットは AI ドリル「Qubena」が入っていて、これを使用して主体的に学んでほしい意図がある。

自分に合った問題を選んだり、つまづいたところは学年を戻して学習したりできる。緊急連絡や宿題配信などにもいずれ使うようになると思うので、学校と話していきたい。

委員

Qubena はクラウドサービスになっていないということか。

教育委員会

技術的には家庭端末でクラウドにログインすることもできる。

ただ、学校の端末には年齢相応のフィルタリングをかけている。

有害サイトに飛ばないようにするなど、安全面を考えると、貸与端末を使ってもらいたいという考えがある。

委員

意図は分かるが、端末自体の重さもある。

家庭での使い方は家庭の責任で管理する部分もあると感じる。

学校と家庭の役割分担も含めて、考えていただければ。

生涯学習に交代

社会教育の推進

事務局より説明。

委員

令和4年3月末で「かつこう」が終了となったが、改修が難しく使わないことになったが、町としては手を放して行事に使用しないということか。

ふるさと歴史観と関連付けて活用できないかと考えたのだが。

生涯学習課

「かつこう」は機能としても厳しく、雨漏り等もしている。

町の普通財産化を図り、中の資料等も出し、現在は歴史館だけとなる。

壊すにもお金がかかる為、町の財産管理の中で考えていきたい。

委員

- ① 現状と課題の中で柏樹学園の話があるが、「就労する高齢者の増加や交通手段の確保に多くの課題があり」の部分で、高齢者が増える中で増えない。
柏樹学園は農村部の人が多いと考えているのですが、交通手段の確保について、高齢者支援課と足並みを揃えてほしい。

- ② 団体貸出とは？

生涯学習課

- ① 柏樹学園の割合としては町の人の方が多い。

今年 104～105 名。最盛期は 600 人。

65 歳以上の方を対象に、個人で色んな学びができる中で、集まりの場としての意義はあるため、集まる人数を増やしていきたい。

交通に関しては、農村タクシー助成であったり、冬場は 65 歳以上の方にタクシー券の助成を行っている。

- ② 団体貸出は、学校、幼稚園、保育園などが授業や活動で本をまとめて借りる制度です。団体として登録することで、個人カードより多い冊数、例えば 100 冊まで最大 2 か月貸し出せるようにするものです。

委員

小学生、中学生、高校生が冬にめむろ一どでの発表を多くの大人に見てもらいたい。

子供の成長だけではなく、大人にとっても学びになり、お互いに刺激を与え合えるので、続けてほしい。

生涯学習課

探求成果発表会は今年の冬に始めたばかりだが、参加者からも好評で地域に広げていきたい。

学校教育を超えて結び付けていきたい。

委員

成果指標 1 の目標値 500 人で前は 1190 人から半減させた理由は？

読書感想文コンクールがなくなったからなのか、児童数が減ったからなのか。

生涯学習課

令和3年に取り組んだ際、コンクールで700人ほどが今では100人ぐらいになった。

読書感想文を宿題として出すこと自体が少なくなった。

目標値は令和6、7年の実績を踏まえ、過去2年を超える数値として設定した。

委員

社会教育団体への支援について、昨年全体の方向性と事業の統廃合について検討があったが、現在どうなっているのか。

生涯学習課

町全体で見直しをしている段階である。この項目にとらわれず見直しをかけていきたい。

必要に応じ、文言でも反映したいと思う。

地域文化の振興

事務局より説明。

委員

文化芸術サークルの把握について、彫刻をめぐる会は把握されているか？

生涯学習課

彫刻等が町内の様々なところにあり一元的に集約できないか問い合わせがあるが、施設ごとの所管の為、把握するのは難しい。サークルの活動については相談を受けながら進めている。

委員

図書館にある彫刻の破損を会が見つけていなければ、なくなっていたと思う。各施設に任せていると無くなってしまうので、一元管理を進めてほしい（意見）

生涯学習課

提案を受け、やり方を検討中。

参考だが、作者によっては「朽ちていくことも作品の一部」という人もいる為、作者の意向も含めて相談しながら検討していきたい。

スポーツしやすい環境づくり

事務局より説明。

委員

前の地域文化の施策とも関係するが、地域部活動に加え少年団等がスポーツ文化の

振興に関わっていると思う。そういった団体への支援、指導者の確保問題など、市民団体や地域団体へのサポートを衰退しないために進めてもらいたい。

生涯学習課

地域部活動の問題はすぐに解決できるものでなく、目標としては11年4月としている。国も計画を6年間伸ばし、取り組んでいる。

教員が支えていたものを地域に移行していく、人材確保が大きな課題になる。

また、活動日数や指導体制が変わることも考えられ、地域全体で文化・スポーツを支え、進めていきたい。

吹奏楽部の楽器は教育委員会が買っていたり、楽器の管理面や全道に行くレベルの指導者確保が難しく、理解を頂きながら、地域全体でやっていけたらと思う。

委員

小学校か中学校でゲートボールの授業をやっている？

生涯学習課

年に1回やっている。

委員

芽室出身の子供達がゲートボールのルールを知っているようにしてほしい。(意見)

生涯学習課

ゲートボール発祥の地ということを発信して行って誇りをもってもらい、郷土愛に繋げたい。

世界的には増えているが、日本国内は右肩下がり。

少年団もあり、もっと知ってもらえるように頑張っていきたい。

委員

「高校生以下の初心者がゲートボールを体験できる機会を提供する」について、主催は町であるか。また、目標が64回から30回になったのは、頑張れば届く30回なのか人数が少なく中止になり回数が減ったのか。

生涯学習課

白樺学園に毎週指導に行っていたことから63回だったが、高校生が水曜日の夜に健康プラザに来るようになったから減少した。

芽室西中学校では、冬にスキーやっていたのをゲートボールに変更した回数を組み込み現状23回、目標としての30回である。

教育課程の編成の問題もあるが、広くやっていきたい意識でこの回数を設定した。

委員

達成のためには、行政と協会が頑張らないと達成できないという認識で良いか？

生涯学習課

いい。

協会メンバーの高齢化もあり、年齢的に競技継続ができなくなっていく。

子供達も進学や就職で人材流出してしまうので、青年層の人口を増やしていきたい。

委員

協会がやっていることを成果指標に入れるのは違うのでは？

行政の目標に入れることに違和感を感じる。

生涯学習課

補助金を振興資金といて出していることもあり、今の回数に行政がほぼ関わっていることも踏まえ、この数字を使用している。

議事終了

全体を通して

委員

総合計画を作るうえで、人口の推計はできていないのか？

政策推進課

作成中である。

委員

人数によって計画が変わらないのか気になった

年代別の表を作って、それに対し検討した方が良いのでは。（意見）

その他

事務連絡

閉会